

# 斑鳩町子どもたちにとって 魅力あるスポーツ・文化芸術活動

の機会を確保するため、  
令和8年度から、休日の  
部活動の地域移行がはじまります。

スポーツ庁・文化庁では、生徒が将来にわたってスポーツや文化芸術に継続的に親しめる機会を確保するため、部活動の地域連携や地域クラブへの移行を目指した環境整備(地域移行)を推進しており、奈良県でも同様に取り組んでいます。

斑鳩町においても、生徒たちのスポーツや文化芸術活動をさらに充実させ、より望ましいものとするため、休日における学校部活動の地域移行に向けた検討を進めていきます。

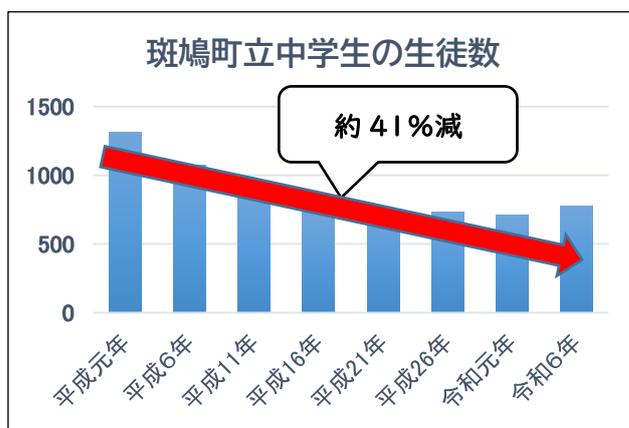
これから、休日の部活動は学校単位ではなく、地域クラブ活動として地域で実施するようになります。これは、子どもたちのための大改革です。部活動のこれまでの「当たり前」から抜け出し、地域で行うクラブ活動として、新しい「当たり前」を作り出します。

## 背景として

### 斑鳩町立中学校の生徒数の減少

町立中学校の生徒数は減少傾向にあります。

平成元年の1,310人から比べると、令和6年には779人となり、約41%減少しています。また、現在の779人から比べると、令和17年には21%、令和27年は25%の減少が見込まれています。



## 背景として

### 教員の働き方改革

中学校の教諭の1週間当たりの学校内勤務時間(持ち帰り時間は含まない)は、63時間20分であり、1か月(4週間)当たりの時間外勤務は100時間近くになっています。

「運動部活動の地域移行に関する検討会議提言」(運動部活動の地域移行に関する検討会議 令和4年6月)

「文化部活動の地域移行に関する検討会議提言」(文化部活動の地域移行に関する検討会議 令和4年6月)



教員の部活動指導を軽減し、教育の質の向上を図ります。

## どうして、部活動改革を進めるの？

- 全国的な子どもの減少
  - ◆部活動当たりの生徒数が減少し、団体競技では1つの学校でチーム編成が困難となり、近隣の中学校と合同で活動したり、大会に出場したりするケースが増えています。
  - ◆部活動の設置数が減少し、生徒が希望する部活動が学校にない場合もあります。
- 生徒が専門的な指導を受けられる機会の充実
- 教員の働き方改革や競技経験のない顧問への対応
- 地域でスポーツに継続的に親しめる新たな環境づくり

## 部活動の「地域連携」と「地域移行」はどこが違うの？

地域連携とは、複数の学校が合同で1つの部活動を運営する「合同部活動」の導入や、部活動指導員などの地域人材を活用して、生徒の活動機会を学校部活動として確保する取組です。

地域移行とは、地域の多様な主体が運営・実施する地域クラブ活動によって、部活動を代替する取組です。学校と連携しつつ、多様な活動をできるだけ低コストで実施します。

## 「学校部活動」と「地域クラブ活動」はどこが違うの？

	学校部活動	地域クラブ活動
運営主体	学校が運営主体で、教員が指導や監督を担当します。	地域のクラブや団体が運営し、外部の指導者や地域の専門家が指導を行います。
参加者の範囲	同じ学校に通う、生徒が参加対象です。	学校に関係なく、より広い年齢層や地域全体が対象となることがあります。
活動時間と活動場所	授業後に学校の施設で行われることが多いです。	学校の施設以外にも、地域の体育館、公民会などで行われ、活動時間も柔軟に設定されます。
指導者	主に学校の教員が指導者として担当します。専門的な知識がない場合もあります。	専門のコーチや地域の競技経験者など、より高度なスキルや経験をもつ指導者が関わることが多いです。
費用負担	基本的に学校の予算で運営されるため、生徒の費用負担は少ないことが多いです。	参加費や指導料、施設使用料などがかかる場合があり、参加者がある程度の費用を負担することが一般的です。
連携の有無	学校の教育方針や授業と密接に連携しています。	学校と連携して活動することもあります。が、学校とは別に独立して運営されます。